丘友會報

鈴鹿高女・亀山高校同窓会

（亀山市本町1の521　TEL05958—2—1518）

亀高創立六十周年 昨秋 記念式典盛大に挙行

「六十年史」も完成

亀山高校の前進である鈴鹿高等女学校が大正十年に創立されて、本年は六十三年目になります。数年前から、六十周年記念事業を実施するための準備が実行委員会を中心に進められていましたが、昨年十一月十二日新築成った体育館で盛大に式典が挙行されました。また、三十年にわたって編纂作業が進められていた「亀山高校六十年史」もようやく同時期に完成発刊の運びとなりました。そこで、森信夫丘友会会長、大谷仁教頭（全日制）に六十周年記念事業のあとふり返っていただきました。（事務局）

記念事業を終えて

教頭　大谷　仁

昨年の秋、「描こうわれらの未来図を六十年の歴史のうえに」のテーマを掲げて、亀高創設以来始めての記念事業が盛大に挙行され、同窓会を中心にして学校関係者の絶大なご協力で成功裡に無事終了いたしました。

新体育館での式典、行事も六十年の歴史の節目を厳粛且つ盛大に祝うことができたことは、「一期一会」の尊さを学び、生徒、職員そして学校の歴史にとっても有意義なことでありました。この事業が今後益々、学校の発展に大きく貢献することと思います。

この事業をすすめるにあたり、丘友会のご協力もさることながら、丘友会長の森信夫委員長を中心とした実行委員会の皆さんの献身的なご尽力がありました。昭和五十五年秋に実行委員会が発足し、会議を重ね、綿密な計画、準備がすすめられ、特に募金活動では、長田幸夫氏を班長として実行委員は勿論、地区委員の方々の熱意と行動力のおかげで目標額を突破することができ、体育館等の施設の充実が果されました。

更に絶大な称賛を得た六十年史は「無から有」の至難の業を成し遂げたといって過言ではないと思います。昭和五十三年から資料収集に始まり編纂が続けられ発行されましたが、校史編纂委員の長年にわたるご苦労と努力に対して敬意をはらわずにいられません。

式典、記念講演（扇谷正造氏）での会場の雰囲気こそ全校生が先輩のよき伝統を引き継いでくれたことです。事業に関する者すべて人の和であったと思います。式典に参加してくれた先輩の口から「さすが伝統ある学校ですネ」の言葉を耳にしたとき、校舎こそ昔を偲ぶ何物も残っていないが、無形のよき伝統が継承されて心の中にいつまでも生きていることを見ることができました。と同時に、この事業に参加することができた生徒にとって自信と誇りを胸にしたことと思います。

私もこの事業を微力ながらお手伝いできたことを感謝するとともに私にとって生涯の宝となったことを幸せに思っています。

最後に丘友会の益々の発展と皆さんの今後のご活躍とご健勝を心からお祈りいたします。

創立六十周年をふりかえって

丘友会々長　森　信　夫

丘友会の皆さん益々お元気で、ご精進のほどお喜び申しあげます。

いつも母校並びに丘友会（同窓会）発展のために格別のご支援とご理解を賜わり深く感謝致しております。

さて、昨年は亀山高校の前身である鈴鹿高等女学校が亀山に創立されて、丁度六十周年にあたりましたので、これを記念して亀山高校創立六十年記念事業を推進致しました。

P・T・A、クラブ後援会、学校側、丘友会の代表で記念事業実行委員会を結成し、関係会員各位に事業の内容、推進計画等をお知らせしてご協力をお願いし、記念行事が行なわれました。

十一月十二日に新体育館で厳粛で盛大な記念式典と講演会が挙行され、また当日を期して「亀高六十年史」が発刊されて母校の誇り高い歴史と伝統を永遠に語り伝えるなど、有終の美をもって、おわりました。

同時に広く関係各位から多くの寄付金を頂戴して母校教育施設の整備充実にも協力出来ましたことは、同窓会という強力な皆さんのご支援があったればこそと、今更ながら深く心に銘記しています。

鉄筋の校舎、整備された施設・設備、ここに学ぶ生徒諸君の明るい笑顔、熱意に満ちた教職員の誇り高い歴史と伝統、活動を通じていつそう親睦を深めることが出来たかと思われます。六十周年記念事業を契機として同窓の絆を更に深めてゆきたいものだと痛感しています。横の関係ではクラス会、学年会、縦の関係では職域、地域など連絡協調の輪をさらに広げてゆきたいものです。

そこで一万六千名の会員の消息をより一そう明確にする必要があり、また本年度は会員名簿発行の年でもありますので、正確で親しまれる名簿を作成し、同窓会活動の原動力、親睦を深める素地にしたいと念願しています。どうか、こんぜもいっそうのご協力を切望しみなさんのご健康とご多幸をお祈りします。

総会のお知らせ

第二十六回丘友会総会を次のように開催いたします。

名簿（第六号）発行、同窓会林の件など会員各位のご意見を賜わりたい案件が種々ございますのでぜひ御出席下さいますようお願い申し上げます。

なおこれをもって正式通知とし各会員宛には案内状をさし上げませんからご了承下さい。

一、日時　八月七日（日）午前十時より
一、場所　母校一棟大会議室
一、協議事項
1 五十七年度経過報告、決算報告に関する件
2 五十八年度事業報告、予算案に関する件
3 役員改選の件
4 同窓会林の件
5 名簿発行に関する件
6 その他

丘友会会員名簿第六号 今年末には発行へ

今年は五年ごとの会員名簿発行の年にあたります。昨年三月以来、会員の消息調査を続けてきましたが、会員諸氏のご協力によって三年三月卒業生以降）からは卒業時に名簿代を徴収しますので、全員に配布してありますので、それ以前の会員からの予約注文が現在八〇〇冊ほどになっています。

まだ予約をされていない会員で希望の方は、同封の払込み用紙にて最寄りの郵便局より代金三、〇〇〇円を払込んで下さい。（事務局）

「亀高六十年史」残部僅少 希望の方はお早目に

昨年十一月に発行されました「亀山高校六十年史」（B5版・一、二〇〇頁）の残部があと四十冊になりました。入手を希望される方は、早や目に代金（送料込み五、〇〇〇円）をそえて申し込んで下さい。品切れの節はご容赦下さい。

（申込先）亀山市本町一の五一亀山高校事務室（☎〇五九八・二・一五一八）

退職教員の戯言

原田好雄

遅咲きの紫陽花が昨夜の雨に濡れて、侘びしく人にも見られず倉庫と倉庫との間に、大きな花をつけてげます。楽ある式典並びに講演会には在校生全員が出席しましたが、整然として節度ある態度に終始し、ご出席いただいた方々からおほめの言葉をいただいたときは感涙にむせぶ思いでした。

創立六十周年記念式典に先だって、亀山高校学園祭では、この歴史的行事にふさわしく「描こうわれらの未来図を、六十年の歴史のうえに」というテーマで行われました。六十年にただ一度の栄ある式典に参加できた在校生は、まことに光栄と言えましょう。

この記念式典をよき契機として、それぞれの生徒が伝統あるわが亀山高校を再認識して、自己の研鑽に励み、先輩方の残された偉業を受け継いで貰いたいと心から念じています。

今や一万六千余名に及ぶ同窓会の先輩諸氏は、地域社会の発展に大きく貢献され、その原動力になっておられることは言うまでもありません。また、県の内外でもあらゆる分野において目覚ましい活躍をしておられます。

本校におきましては創立六十年の節目を契機に教育の指針と称すべき目標を確立して、生徒の教育に一路邁進する覚悟でございますので、丘友会先輩諸氏の絶大なるご支援とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

ごあいさつ

学校長　菊田　栄一

丘友会の皆様方にはお元気にご活躍の御事とお喜び申し上げます。平素は本校の教育振興のために多大のご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

昨春、旧ふたば園あとに県下でも最大級の新体育館が竣工し、昨秋には本校創立六十周年記念式典並びに扇谷正造氏の感銘深い講演会が盛大に行われ、また県下に誇り得る亀山高校六十年史も発刊されました。この千載一遇の光栄に浴し、思いを新たにしている次第でございます。また、新体育館の内部設備が充実されたことは、これひとえに丘友会先輩諸氏並びにクラブ活動後援会、PTAの各会員諸氏が寄付集西走された賜物であり、衷心より厚く御礼申し上げます。

丘友会の皆様方にはお元気にご活躍の御事とお喜び申し上げます。平素は本校の教育振興のために多大のご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

昨春、旧ふたば園あとに県下でも最大級の新体育館が竣工し、昨秋には本校創立六十周年記念式典並びに扇谷正造氏の感銘深い講演会が盛大に行われ、また県下に誇り得る亀山高校六十年史も発刊されました。この千載一遇の光栄に浴し、思いを新たにしている次第でございます。また、新体育館の内部設備が充実されたことは、これひとえに丘友会先輩諸氏並びにクラブ活動後援会、PTAの各会員諸氏が寄付集めに心血を注がれて東奔西走された賜物であり、衷心より厚く御礼申し上げます。

母校教職員の異動

◎転入

教諭	前川志摩子	高
〃	高島良輔	高
〃	伊賀信子	高
〃	赤塚宮川	高
〃	川本覚	高
〃	和田三喜夫	高
〃	桜井景子	高
〃	中桑明俊	高
〃	曽我名幸夫	高
〃	上野工業	高
養護教諭	野口薫	高
講師	新井採鼓	高
事務次長	笹石新	高
主事	加藤薬師	高
県技師	土木部	高

◎転出

教諭	鈴木征一郎	高
〃	岡村昌明	高
〃	宮川静雄	高
〃	長谷川静雄	高
〃	白子	高
〃	西河定	高
〃	細川眞	高
〃	久居	高
〃	岩脇雅和	高
〃	四日市西	高
養護教諭	稲垣輪子	高
事務次長	高田岳	高
主任主事	四日市商業	高
退職教諭	山木栄子	高
〃	消防学校	高
〃	原田好雄	高
〃	広瀬薫	高
〃	新納和世	高

退職に当って

広瀬　薫

昭和三十四年四月に亀山高校へ転勤して以来二十五年間、大過なく職務を全う出来ましたのは、諸先生方並びに生徒諸君の絶大なる御協力の賜と深く感謝しています次第です。

私の亀山高校在職期間を考えて見ますと、二つの時期に分けられると思います。一つはバレーボールの普及発展に邁進の時期、二つ目は生徒指導に当った時期だと考えます。

バレーボールの普及発展に努力したのは、丁度昭和三十六年頃から高等学校に大人制が採用されるようになり、その指導に県下各地を巡回して指導方法、練習方法を講師として歩いたことだと思います。その時運よく、生徒の中にもバレーボールの好きな生徒が居て、私と共に苦楽を共にする気持ちの愛好者が沢山居てくれた事が、県大会の数度の優勝につながったのではないかと思います。

今その事を思い出すと、なんであんなはげしい練習をしたのかと思う事もありますが、指導の方法としては余り良くない事と反省しています。然し部員と共に練習に汗を流し、苦楽を共にする気持は一番大切な事でないかと思います。

年老いて身体が思うように動かなくなった今、唯口先だけで選手を思うように動かすのは大変な事です。でも亀山高校にとどまることは、却って学校教育の発展にマイナスになることを意識し、まだ定年ではなかったが、三年間かかって考えて来た『六十年史』の編纂の仕事も、やっと果しえたので、第二の人生、それは専門の国史学の研究を、だれにも拘束されず悠々自適の生活の中で深めていくことであったが、世間は煩わしいもので、再就職を余儀無くすることになってしまった。結果的には第一の人生より、激しい渦の中に巻き込まれることになったわけである。

斎藤の前の紫陽花を眺め、暫し、過ぎし日の、長いようで短かい人生の大半をそそぎこんだ亀山高校教職員時代を回顧したが、これからの人生を生き抜くための仕事を思い出し、依頼された原稿は、とりとめのないものになってしまったが、ここで止めることにする。

（原田先生は、この四月から請われて高田高校で日本史の教鞭を取っていられます）

理屈は解っているがそれが動けないのを指導するのが教師であり監督である。動けるようにするのにどうしたらよいか、悩んで寝られない夜も度々あったと記憶しています。また或る時は朝早く選手をコートに集めて、前夜考えた事をやってみる。また練習試合で試してみる。

バレーボールは如何に相手より早く十五点を取るかの競技ですから、相手に十三点取られようと自分の方が十五点に早く到達すればよいわけです。所がそれが仲々むつかしい事です。リードをされた時の気持ちの持ち方、リードしている時の気持ちの持ち方、またその時々の攻撃の仕方等、その時の選手部員の構成により年々変ります。

私は現在、講師として学校に居る傍ら、バレー部の指導に当って特にその感を深くします。教師と部員の気持ちが一致した時成功があると思います。技術的な指導よりも精神的な指導が高校生のクラブには一番大切ではないかと思います。

丘友会の方々にもマスコミバレーや実業団でプレーをしている人、又その指導に当っている人達も、同じような事が云えると思います。

まだまだいろいろと感じているのですが今回はこれで失礼します。

母校の現況

全職員生徒指導に汗して

―苦言と援助を待つ―

木村　齊

「おいそのズボン、Kマーク付いとるか」「クリーニングに出しました」「その頭はなんだ」「ドライヤーで一寸型をつけました」「口紅つけてるナ」「つけてません」「うそいえお前のそんなに赤いか」「リップつけてます」……このようなやりとりが連日耳に入ります。縄を追うような毎日ですが、一五〇〇名中の一握の生徒への指導のくり返しです。

本校も例にもれず、頭髪、服装、カバン、靴など校則違反があり、先輩諸氏にも目にあまる行動など、いらだたしい限りだと思います。

中勢地区においては進学校を除き、生徒指導面において上の部に属するのではないかと地元外から耳にしますが、満足しているわけではありません。

生徒会の風紀委員会も遅刻防止キャンペーンを実施し、一日のスタートを大切にすべく生徒なりに頑張っております。

又毎月一の日には市内五ケ所に立ち交通指導、校内三ケ所に立ち下校時の服装、カバン指導、更には、国鉄列車内の指導など全職員あげて四月以来延べ25日間の特別指導を実施してまいりました。なんとか地元におけるよくない評判を一日も早く返上し、正しい生活態度を保たせるよう努力中です。

特別指導処置（処分）を受けた生徒は、57年度は前年比30％の減少であり、本年4・5月は前年14件に対し喫煙2、無断アルバイト2の4件のみと著しく減少しています。

教育学者デューイは「教育は子供を教えるのであって、教科を教えるのではない」と明言しています。物質的豊かさの中で、また親の過保護の中で、自我の確立が無視されて育てられてきた結果、人間疎外がおきています。

私達教師は何を教育すべきなのか。教科中心でもなく、進路指導中心でもなく、生活指導中心でもなく、豊かな人間性を育てるために人を人間らしく育てるために、毎時間の教科指導の中で生かされてはじめて実現するのではないでしょうか。

教師をはじめ親も含めて私たち大人は、学び育つ主体である子どもたちの実態をあまりにも知らずまた知ろうとせずに、彼らの力を過小評価しているのではないでしょうか。

むろん、子どもたちは大人の影響を受けて成長する。その影響が大人の借物であるかぎり、その成果は見せかけのものでしかない。だから、いくら教えこんでも、それを自分のものにしない限り、子どもたちは自立できないのだ。成績のよしあし、学歴、進路就職いずれも子どもたち自身の問題であって、その子供達に自覚させることこそ初めの一歩ではないでしょうか。

子どもたちは「人」であり「心の動き」がある。思春期の複雑な「心の動き」をとらえ、粘り強く、愛ときびしさによる指導こそが今日的な指導ではないでしょうか。

生徒を中心に、教師もそして親でもあり兄姉でもある丘友会の皆さんと三者一体となって、亀高をよくするため努力したいと考えています。皆さん、事の大小を問いません。良い事も悪いことでもご連絡下さい。指導の糧にして頑張りたいと思います。

（生徒指導部主任）

亀高生徒会の現状

石丸　泰

生徒会の現状について何か書けということですが、今年全く未経験のまポッとはめ込まれた新米顧問の身では何を書いてよいものやら大変戸惑いを覚えています。

四月に就任して以来、それでも早いもので二ケ月半を経過致しましたが、四月の新入生歓迎行事の後、執行部が発足したのがやっと五月の上旬、程なく中間考査に突入し、考査明けと共に馬車馬の如く取り組んだ体育祭が終了したのがついこの先週の七日、今やっとホッと一息ついて次の目標へようやく取り掛かろうというところです。

現状ではまさに行事から行事への綱渡りというのが生徒会活動の実態ですが、生徒の本来持っている要求を堀り起こし、また亀高の生徒集団の質を一歩でも高めていくことが最も大切な目標であろうと思います。

生徒の現状をみると、年々自治能力が低下しつつあることを痛感します。自分達自身で仲間と手をつなぎ、共通の目的に向ってテキパキと物事を処理していく能力が衰えつつあります。執行部に出てくる生徒達も決して責任感が低いわけではないにせよ、リーダーとして仲間をとりまとめていく力や企画力など、どれをとっても教師側のあれこれの指導が入らなければ何も出来ないという有様です。

これは学力の低下とも大きな関係がありましょうが、単に成績（点数換算可能な範囲の）良し悪しを問わず、どの生徒にも共通の現象のように思います。

HRでは多くの場合テーマを与えてクラス討論をさせても意見は出ず、ごく少数の者の意見（それも体系だったものでは全くない）に全体が右えならえか、あるいは全く意見の出ぬままいきなり採決で重要な意思決定を行っていくといったことが日常化してきています。生徒同志の会話も雑談となり、生きる力としての言葉を見失ってきているのが今の生徒の一般的な傾向ではなかろうかと思います。

いささか非親的なことを書きましたが、亀高生の全てが必ずしもそうだというのではありません。はじめからねらってクラス一丸となって全力投球してくれた生徒たちも大勢います。

積み木を一つ一つ種む作業にも似て大変しんどい作業だとは思いますが、根気よく生徒とつき合いながら何かを刻んでいくしかない、そういった気持で願問団は取り組む必要があるのでしょう。

（生徒会顧問）

S57年度卒業生の進路

不況下、厳しい就職状況

西村　栄二

最近の進路状況をお知らせします。

まず進学では、ご存知の通り理工系ブームが昨今の特徴です。工学部の競争率が上昇しており、理、農、水産学部も難しくなっています。本校でも理工系志望の男子が増えていますが、冷静に分析すれば、情報、電子工学とりわけコンピューターやLSI、VTR関係、ロボット工学、新素材、生物工学、新エネルギー開発などの分野が活況を呈し、将来性もあるに止まっていて、かって花形産業であった重化学工業は不況にあえいでいるのが現状です。表面的な社会風潮に踊らされるのではなく、生徒の適性や能力、興味に合致した学部を選択するよう指導しています。

国公立大学共通一次試験も五年を経過して制度の見直しが行なわれていますが、五教科七科目の試験は受験生にとってかなり負担です。その影響で国立離れが目立ち、古い歴史を持つ有名私立大学への受験生が殺到するため難しくなっています。

本校は受験競争の刺激が少ないためか、生徒の進路決定も遅く、勉強の熱意も今一歩というところです。

この現状を打解しようと、今年の一年生から年間三回の英数国実力テストと習熟度別講座編成を導入しました。その効果が現われるのは三年先になりますが、今年は例年に比べて生徒の勉強態度が良くなったと感じています。

また、女子の短大、地元志向は年々強くなっていますが、昨年度は推薦入学によって進学した生徒が増えています。同時に各種、専修学校への進学希望も増えています。これらの傾向が真に学習意欲に基づくものであれば歓迎すべきですが、ややもすると安易な道を選ぶことになりがちなので警戒と指導を強めています。

次に就職ですが、長びく不況のために各企業は減量作戦をとり、少数精鋭で乗りきろうとしています。昨年度は国鉄の新採用なしをはじめ、多くの事業所で採用ゼロや求人数減の方針を打ち出し、就職希望の生徒にとっては厳しい年になりました。しかし、従来からの亀高の信用と実績を評価していただき、ほぼ例年並の就職率にこぎつけました。

本校の就職希望者の地元志向が強いことは変っておりませんが、事務職に固執せず、女子もブルーカラーへどんど進出したことが目立ちます。従来は敬遠していた中小企業へも多くの生徒が就職しています。これは若者の職業や生活についての意識が変ったとも言えますが、やはり不況が影響していると思われます。

生徒達の豊かな未来のために道案内をするのが私達の使命と考えて努力しています。どうか丘友会会員諸氏におかれましても後輩のためよろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。

（進路指導部主任）

昭和57年度卒業生進路状況統計

課程 / 進路	普通科 人数	普通科 %	商業科 人数	商業科 %	家政科 人数	家政科 %	保育科 人数	保育科 %	全卒業生 人数	全卒業生 %
進学者	117	53.7	9	10.7	29	23.4	11	28.2	166	35.7
就職者	80	36.7	71	84.5	93	75.0	26	66.7	270	58.1
家事・自営他	21	9.6	4	4.8	2	1.6	2	5.1	29	6.2
合計	218	100.0	84	100.0	124	100.0	39	100.0	465	100.0

課程 / 進路	男	女	計	普通科 男	普通科 女	商業科 男	商業科 女	家政科	保育科
大学（学部） 国立	1		1	1					
大学（学部） 公立									
大学（学部） 私立	34	8	42	33	8	1			
短大 国立									
短大 公立									
短大 私立	2	61	63	2	39		2	13	7
専修学校	14	39	53	13	17	1	5	13	4
各種学校	1	6	7	1	3			3	
小計	52	114	166	50	67	2	7	29	11
就職者	52	218	270	31	49	21	50	93	26
家事・自営他	16	13	29	15	6	1	3	2	2
総計	120	345	465	96	122	24	60	124	39

就職者の産業別分類

課程 / 業種	男	女	計	普通科 男	普通科 女	商業科 男	商業科 女	家政科	保育科
金融・保険業		7	7		4		2	1	
製造業	24	71	95	15	17	9	23	26	5
卸・小売業	12	57	69	7	8	5	3	34	12
運輸・通信業	5	15	20	3	3	2	3	6	3
サービス業	4	57	61	1	13	3	14	24	6
公務	5	1	6	3	1	2			
その他	2	10	12	2	3	2	5	2	
合計	52	218	270	31	49	21	50	93	26

部活動戦績報告（57年度）

ウェイト、全国総体準優勝

野球も久々一回戦のカベ破る

先輩諸兄には母校のクラブ活動に日頃なにかと期待を寄せられていることと思います。ここに五七年度の運動部の活躍状況を報告致します。今後共物心両面にわたり御援助、御教示をよろしくお願い致します。

どのクラブも日頃練習に励み、県内大会で上位に活躍しております。サッカー、バスケット（男子）がベスト8、バレー（女子）がベスト4、陸上個人で3、4位に入賞しています。今一歩のところで県外の上級大会への出場がはばまれております。

しかしウェイト、バレー（女子）、少林寺拳法はめざましい活躍で東海高校総体または全国大会に出場しました。バレー（女子）は県内で三位になり、東海大会に出場、惜しくも一回戦で敗れました。少林寺拳法も県内で二位になり全国大会一回戦で惜敗しました。今後の一層の精進を期待したいと思います。

ウェイト部は例年活躍がめざましく、昨年度も、県内、東海総体で共に団体優勝を果し、全国大会（インターハイ）への出場を果し、ここでも準優勝という輝かしい戦績を残しました。ここにその全国大会の入賞者の成績を掲げます。（鹿児島県開催）

52kg級	豊田広和	トー	
タル170kg	6位		
56kg級	田辺	トー	
タル192.5kg	中井幸夫	トー	
67.5kg級	森 浩之	トー	
タル230kg	1位		
90kg級	黒川雅司	トー	
タル225kg	5位		

なおこの中で森浩之は国体にも出場し優勝しており、又彼は日韓親善大会にも出場しました。

今後ウェイト部には全国優勝という目標に向かって努力されるよう期待します。

また昨年度は久しぶりに野球部の活躍もめざましく、夏の大会で8年ぶりの二回戦進出を果しました。一回戦は初陣の上野農高に圧勝しましたが、二回戦好投手のいる宮川荻原高に惜敗しました。

先輩諸兄の熱い期待のもと、後輩たちの精進努力をおおいに培い、「いまだ亀高ここにあり」と気をはいてもらいたいものです。

48総体より早や十年

―ウェイトリフティング部の歩み―

平岡　一能

昭和48年8月2日から5日迄、第20回全国高等学校総合体育大会ウェイトリフティング競技大会が本校体育館（今は第2体育館と呼んでいる）で開催されました。あれから丁度10年になります。月日のたつのは本当に早いものです。

私は昭和45年に本校に転勤してきました。あの当時の代表的なクラブは、ソフト、剣道、バドミントン、体操、バレー、陸上等で、いずれも女子クラブが県内・東海・全国とそれぞれに活躍していましたが、男子のクラブは全般的に活気がみられず、又何だかひ弱であわれにさえ思ったものです。48（ヨンパチ）総体の開催が迫るにつれ、私は私なりに自分の特技（?）を入いて伝授し、亀高から一日でも早く全国的なリフターを一人でも多く出したいと強く願ったものです。

クラブ創設当初の目標は、当時の本校生の状況からして、又集まったメンバー構成からしてもかなりけたはずれの感もありましたが、部員ともども大きく掲げたものでした。個人によって差がありますが、〇〇君は三年後の××大会には三位内をめざせ、又48総体にはメンタルな競技ではあるが会場校だから、石にかじりついてでも、団体三位内入賞を果たそうとハッパをかけたものでした。

クラブ創設から三年目やもすれば目標を見失いそうになった我がクラブではありましたが、48総体には蔭げ様で夢にまで見た団体三位入賞が出来、選手、関係者一同目に涙して喜び合ったことを今大変なつかしく思い出されます。

今年の部員数は22名です。先輩の残してくれた業績をけがさず大いに練習に日夜励んでいます。又県、市関係者を初め丘友会、クラブ活動後援会の皆様、諸先生方の御協力、御支援のもと、今では全国的にも亀高ウェイトリフティング部の評価も高まりつつあり、大変喜んでいます。

近年地元の部員も増えつつあります（今年の新入部員10名）。それに成績面でも、昨年の鹿児島大会では団体優勝を一点差でのがしましたが、平井一正先生の指導のもと着実に力を付けています。この上は若い平井先生を大いに助け、世界に君臨すべき選手をつくり、皆様方にも喜んで頂きたく思っています。

（ウエイトリフティング部顧問）

（開催県、開催地、会場校団体三位入賞は、昨年の第29回大会まで亀高以外になく、思いがけない歴史的記録を只今更新中でもあります）